

令和4年度 第1回森町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和4年7月1日（金） 午後2時00分～午後3時15分

2 場 所 森町役場北館2階 会議室A

3 出席者 森町長 太田 康雄
森町教育委員会
教育長 比奈地 敏彦
委 員 村松 昌吾
委 員 鈴木 眞子
委 員 早馬 保男
委 員 佐藤 佐和子

(説明出席者)

学校教育課長	塩澤 由記弥
学校教育課長補佐	土屋 智也乃
学校管理係長	井口 寧了
庶務係長	鈴木 真央
社会教育課長	松浦 博
社会教育課長補佐	三澤 由紀子
健康こども課長	朝比奈 礼子
健康こども課長補佐	小澤 貴代美

4 議 事 (1) 令和4年度 森町の教育について
(2) 中学校部活動の地域移行について

5 傍聴人 2人

6 議事の概要

学校教育課長 開会

町長

本日は、昨年度改修し今年度から新たに使用している北館で開催することとなった。この建物は、旧周智高等学校の機械実習棟であったもの。周智高校と森高校の統合で周智高校の敷地、校舎が廃校になったことから、町が県から払い下げを受けた。グラウンド部分は先行して払い下げを受け、すでに総合体育館が建設された。校舎等の敷地部分についてはその後払い下げを受けたが、その際に比較的建築年度が新しく構造も使用しやすいことから、この機械実習棟は解体せずにそのまま建物として購入をした。この機械実習棟をどのように使うかを庁内で検討した結果、現在、町の書類や資材を保管している旧児童館、旧静岡銀行森町支店がかなり老朽化をしており、それらを集約するためこの機械実習棟を改修した。併せて旧静岡銀行森町支店を事務所として使用していた

「袋井市森町シルバー人材センター森町事業所」も北館の一部を事務所として使っていただくこととした。先ほども見ていただいたが、1階はかなりの部分を文書庫として使っている。行政文書というのはそれぞれ保管期限が定められており、その期間は保管をしておかなければならず、文書管理を徹底していくため新たな保管庫を設けた。併せて、2階奥の部屋へは、町が譲り受けた三倉の旧農協倉庫にある埋蔵文化財や出土品等を搬入しているところであり、文化財等を管理する意味も含め文化振興係の執務室を設けた。以上が北館の改修に関わる経緯と現在の状況である。

さらに令和4年度に新たに変更した点として、保健福祉課を健康こども課と福祉課の2課へ再編をした。これは就学前のお子さんの幼稚園と保育園の窓口を一本化することが大きな目的であり、健康こども課が担当しているため、今回の総合教育会議には健康こども課も出席をしている。

また飯田地区では、令和5年度開園を目指して民間事業者による定員70名の保育園の建設が進められている。保育園の利用希望が非常に多くなっており、森町にとっても待機児童の解消、子育て世帯への支援に大変ありがたい事業であるため、町としても支援をしているところである。

本日の総合教育会議は、「令和4年度の森町の教育について」と「中学校部活動の地域移行について」という大きな2つのテーマであるが、それ以外でも様々な忌憚のない意見をいただきたい。

教育長 町長には、日頃から教育行政に多大なるご理解ご支援を賜り感謝を申し上げます。

学校教育関係について、新型コロナウイルスの子供たちへの広がりが大きく学級閉鎖もあったが、今は落ち着いている状況である。このまま1学期が終了できれば良い。このような中で各園や学校においては、1学期に予定していたそれぞれの教育活動が実施できている。引き続き子供たちが楽しい夏休みを迎えられるように感染対策を行っていく。

社会教育関係についても昨年度はいろいろな事業が中止となったが、今年度は規模縮小や、やり方を工夫してスタートを切っている。

今回は健康こども課も出席してもらっているが、子供たちの数の推移もヒントにしながら、幼児教育のあり方等についても話し合いが深まっていくよう、よろしくお願いしたい。

学校教育課長 議事進行を町長にお願いする。

町長 議事(1)令和4年度森町の教育について、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 資料のとおり説明。

町長 学校教育課からの説明について、質問等あるか。

村松委員 先日の教育委員訪問で各園、学校を訪問し子供たちの様子を見た。今説明を受けた事業についても確認し、子供たちが充実した園、学校生活を送るためにはとても良い施策だと思う。

早馬委員 本日「わかば」を視察し、様々な事情があつて不登校になっているかと思うが、親としてはとても心配なことであり、このような居場所があることは子供にとっても親にとってもとても良いこと。

鈴木委員 学校に行けなかった子がわかばには来られるようになったということだけ

ですごく良いこと。親御さんが時々農作業を手伝ったりというように、親と先生が密に関わり子供の様子をお互いに確認し合っていると聞く。親が安心してこそ子供も安心すると思うので引き続き重視してもらいたい。

佐藤委員 わかばを視察し、温かい雰囲気子供たちも安心して通えているのではないと思う。また進学率 100%ということで、親にとっては中学を卒業した後にどうなっていくのかが一番心配する部分でもあるが、そこ(進学)に繋げていけているというのは親にとってはとてもありがたい。どこに相談すれば良いか分からない、親だけでは限られたことしか分からない中で、ケアしてくれるのはとても良いことなので、もっとわかばというものを周知した方が良いのでは。

町長 わかばの周知方法はどのようにしているか。

学校教育課課長補佐 全員に周知しているというわけではなく、不登校になっているお子さんの保護者が、スクールカウンセラーや担任に相談する中で情報提供をしている。

町長 本日配布されている「わかばだより」はどのように配布しているのか。

学校教育課課長補佐 毎月学校へ配布している。

村松委員 現在は大人でも引きこもりがいるので、幼小中からの長いスパンで総合的な教育を考えていきたい。

町長 続いて社会教育課から説明をお願いします。

社会教育課長 資料のとおり説明。

町長 杭迫柏樹氏について、森町議会 6 月定例会で森町名誉町民第 1 号に選定することに同意をいただいた。今年の 3 月に森町名誉町民条例を制定し、条例に基づき杭迫氏を森町名誉町民に選定した。そのことについて、杭迫氏が感謝の意としてご自身の作品等を町に寄贈してくださることとなった。授賞式については 9 月、記念講演を 2 月に予定している。

森町茶業史の編集については、中村羊一郎氏に取りまとめをお願いしているところであるが、現在 3 年目で予定より時間がかかっている。理由としては、コロナ禍で県外の先生が調査に入れないことと、調査をしていくほど新しい資料が出てきて執筆量が膨大になっているということが挙げられる。森町の茶業だけでなく、静岡県あるいは日本の茶業の歴史にまで及ぶものになろうかというものであるため、楽しみにしていただきたい。

では、社会教育課からの説明について質問等あるか。

早馬委員 杭迫柏樹氏の寄贈された作品について、小中学生に本物を見てもらいたいと思っているため、ぜひそのような機会を作ってほしい。

町長 美術館のように常設で展示をするのは森町では難しいが、一度は小ホールでお披露目する機会を持ちたいと思っている。

佐藤委員 森町はたちの集いについて、実行委員を募集し、実行委員の意見を取り入れた式典を開催するということで、すごく良い取組みだと感じた。二十歳になる子たちが主体となったより良い式典になることを期待する。

鈴木委員 幼児教育学級、家庭教育学級等については、コロナで思うような活動が出来なかった部分もあったが、子育て中の母親たちがこのような教育を受けるということは、子供を育てるうえで大切なこと。引き続き充実した取組みを実施してほしい。

村松委員 新型コロナウイルスの影響でいろいろな活動が制限されている中で、通信等

含め何か新しい活動ができれば良い。検討してほしい。

町長 続いて健康こども課から説明をお願いします。

健康こども課長 資料のとおり説明。

健康こども課課長補佐 資料のとおり説明。

町長 健康こども課からの説明について質問等あるか。

村松委員 現在これだけ保育園のニーズがあるということは、時代の流れが変わってきていると感じた。保育園の良さ、幼稚園教育の良さをそれぞれきちんと見極めてほしい。

健康こども課長 幼児教育については、幼稚園の良さもちろんあるが、片や働かなくてはならないため保育園に預けたいと考える保護者もいる。今年度から幼稚園と保育園の窓口を健康こども課に一本化し、さらに保育コンシェルジュを一人配置した。幼稚園や保育園の受付をする中で、それぞれの特徴や良さを丁寧に説明し、保護者が選択しやすい状況を作っていく。

早馬委員 先日学校・園訪問で幼稚園を訪問したが、やはり人数が少なくなったと感じた。時代の流れもあり、今の子供を持つ親は保育園を望んでいると感じているが、森の教育として幼小中一貫教育を実施することで、幼稚園と小中学校はとても連携が取れている。人数が少なくなり幼稚園としてこれで良いのかと心配にもなるが、一貫教育で連携していくためには、校区ごとに1園は残るように考えていかなければいけないと思う。

鈴木委員 早馬委員と同じように、子供のことを考えるとある程度まとまった人数で活動した方が小学校へ向けて繋がっていくと思う。とにかく良い方向で保育ができると良い。

佐藤委員 就学前児童推移がわかりやすく参考になった。保護者の中ではこども園を開設してほしいという声もあれば、天方幼稚園のように自然の中でのびのび教育ができる園を存続してほしいという声もある。しかしながら、実際子供の人数が減っている現状を見ると、少人数の良さもあるが何かしらの対策は早急に必要だと思う。

教育長 私見として捉えていただきたいが、教育委員会学校教育課として具体的な話はしていないが、幼稚園のことを“点”で考えると、まずは極小規模園を何とかしなければならない。これは教育の質や先生方の負担の問題であり、今の姿は正常ではない。次に“線”で考えると、少子化が進む中で町の幼稚園5園をどうするかと考えた時に、保育園と幼稚園がどうあるべきか、お互いが共存していくようなあり方を考えなければならない。さらに“面”で考えると、働く親の立場に立ち、時代の流れに沿って就学前の教育はどうあるべきかを考えなければならない。話は飛ぶが、令和2年度に泉陽中と森中が統合し、令和3年度に三倉小と天方小、森小が統合したので、本年度は子供たちの成長の見届けや検証をしている段階である。子ども子育て会議でもいろいろな意見があるのは承知しているが、幼稚園は地域に根付いており、すべてをこども園化で良いのか、それとも幼稚園を残すのか、町の特色として少ない人数の園も残すのか、健康こども課とも協議、調整を図っていきたい。また、今後の幼稚園のあり方を考えていく際に優先してはいけないが、建物の老朽化に伴う維持管理の増加の問題も考えていかなければいけない。

町長 みなさんからいろいろな意見を聞いたが、今日の会議で何か方向性を出すとか考えをまとめるというつもりはない。現状を知っていただいて、幼稚園については訪問をしているということなので、現状を知っていただいて、共通認識を持っていただけたと思う。今後も慎重に協議をしていかなければいけないので教育委員会の中でも取り上げていただきたい。

健康こども課で実施しているアンケートについて説明をお願いする。

健康こども課長 現在就学前児童の保護者 624 人を対象にアンケートを実施している。期日は 6 月 23 日から 7 月 3 日までで、WEB で回答してもらう。内容は、「幼稚園に朝預かりの制度があれば利用したいか」や「認定こども園が町に出来た場合に、幼稚園、保育園含めどのような園を利用したいか」「どこの園を利用したいか」など 4 問の質問となっている。このアンケート結果を集計し、子ども子育て会議の中でどのような施策が必要か検討していきたい。

町長 実際に小さなお子さんをお持ちの親御さん達がどう考えているかの意向を確認するためのアンケート調査なので、今後の検討材料になるかと思う。

続いて議事(2)中学校部活動の地域移行について、事務局から説明をお願いする。

学校教育課長 資料のとおり説明。

村松委員 現在の部活動の在籍率は高い方だと思う。資料にもあるが、高校入試にあたっては調査書というものがあり、部活動や特別活動も評価をする。そのため無理して在籍している生徒もいるのでは。もっと自由に活動できれば良いと思う。実際にサッカーやバスケ、バレーを個人で行っているところもある。そういう場を提供してあげられるように指導者を確保してほしい。

教育長 磐周地区の協議会有り、現場の校長や教員と話をする機会があった。磐周として考え方が共通している部分もある。解決しなければならない問題は、土日だけはとにかく先生方の負担がないようにしなければいけない。ただ、先生方の中には部活動が好きな人、やりたい人もいるため、そのような先生のための兼職等のルール作りも必要。指導者の確保など財政面での支援等を含め、地域の実情にあったやり方で出来るところからやりたい。

町長 中学校部活動の地域移行について、本日は情報共有に留めさせていただくが、いずれにしても自分が中学生だった頃の部活、自分の子供が中学生だった頃の部活とは明らかに違うという認識でいいといけないと改めて思う。

議事については、以上で終了となる。

学校教育課長 閉会